

# 国字問題研究会

## ニューズ

1991年春季号 1991年4月1日発行 題字 見城慶和

発行=国字問題研究会

年間4回発行

8ページ 200円

通常号頒価100円(会員の購読料は会費に含む)

郵便振替

東京2-166934

年会費 2000円

ある地区へ行ったときの話です。研究会のテーマの話が終わって、少し時間がありましたので、教育漢字問題にふれました。ふれてみますと、はじめのうちは教育漢字の過多に問題がある話をする人は、一人もいません。

研究会も回を重ねました。時々、教育漢字の過多にふれてみました。数回ふれているうちにだれからともなく教育漢字が過多で困っていると、この変化はどうしてなのかと考えました。

一つは、文部省の配当した教育漢字だから、何の疑問を持つことはないという先入観で漢字教育をしていたが、その先入観が話のなかでくずれたこと。

二つ目は、会で漢字教育の話をするた

みよなま

何度か、話をしていると

「教育漢字、多いね……。」

田村利樹

びに漢字教育は、読んで書き順を教えるだけではなく、音読み・訓読み、漢字の成り立ち・構成、筆順、使い方などを指導し、ことばの教育として位置づけることなどを話しあってきたことがもたないかと思いました。

漢字教育の過多についての認識は、日本中のだいたいの教師がこういう実態だとみてよいのではないだろうか。

こういう状態をなるべく早くなくす必要があります。

教育漢字の過多が学校教育を荒廃させている大きな原因になっているからです。

国字研は、故大久保忠利先生を先頭にこのことについて発言してきました。会員をふやし、もっともっと、こういう発言をする教師が多くなることが、望まれるのではないのでしょうか。

(たむら・としじゅ)

# 1・2年生に「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由

田村利樹

国語科が、1・2年生に「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村利樹先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

なぜ「ひらがな」が「カタカナ」になるのか

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

「ひらがな」が「カタカナ」になっている理由を、田村先生に伺った。

を得ない。

文字指導の過密化とは、1年生で「ひらがな」の読み・書きのすべてを指導し、「カタカナ」の「ひらがな」の読み・書きを、八十文字の漢字の読み・書きが、あるということである。「ひらがな」指導を「カタカナ」と「漢字」がど

「カタカナ」の書きまで徹底できないのである。1年生の漢字は、2年生以上の学習で、どうしても必要なので、徹底しなければならぬ。そうすると時間をとるには、カタカナ指導においてということになる。本来は、「カタカナ」も、きちんと指導しなければならぬのであるが、そうしていたのでは、1年生は「ひらがな」「カタカナ」「漢字」の文字指導のみとなってしまう。いくら「指導要領」に

「ひらがな」の学習であるから、「ひらがな」の学習の時より、児童は国語科学習の抵抗が大きくなってくる。教師も、どう消化したらよいかと考える。そこで考えられるのが「カタカナ指導」を、読んでふれる程度にすることである。「カ

「ひらがな」「カタカナ」「漢字」とあるからといって、教師は、そのとおりにしない。国語科で重要な、読み・書き（作文）などをしなければと考えるからである。けれど、いくら、教師が配慮しても「カタカナ」にひととおり

「ひらがな」の学習であるから、「ひらがな」の学習の時より、児童は国語科学習の抵抗が大きくなってくる。教師も、どう消化したらよいかと考える。そこで考えられるのが「カタカナ指導」を、読んでふれる程度にすることである。「カ

「ひらがな」「カタカナ」「漢字」とあるからといって、教師は、そのとおりにしない。国語科で重要な、読み・書き（作文）などをしなければと考えるからである。けれど、いくら、教師が配慮しても「カタカナ」にひととおり

ふれなければならぬから、教師はふれる。ふれたことによって、児童は、読み・書きまで学習したことに結果的になってしまうから、児童は消化不良のままである。これが国語学習ぎらいの気分をつくることになる。気分だけならまだよいが、「カタカナ」は漢字学習の基本であるから、「カタカナ」未消化は漢字学習に支障を来すことになる。たとえば「ツ」と「シ」の区別ができない児童は、「図」を「田」と書いたりすることになる。おとなでも「ソ」と「ン」、「マ」と「ア」、「ク」と「ワ」などの区別をして表記できない場合があるが、これは、現在の指導要領の過密化のもたらしたものである。

## 二年では漢字のつめ込み

新指導要領では、百六十字の漢字となる。これまでは、百四十五字だった。百四十五字の漢字でさえ、教師はふうふうしていた。児童には漢字の洪水であった。その大変さを教師は惑いながらも声に出して、文部省にいわなかっただけのことである。

二年生で漢字一字をていねいに指導すると、一文字で二十分はかかる。一時間で二文字である。今までの百四十五文字だと七十時間は必要だった。これは、二年生の国語科の時間数の約三十%となる。その上、一年生の残りの「カタカナ」指導がある。一年生と同じように文字学習が、ウ

エイトを占める。文字学習もゆとりがある中でするなら楽しいが、かけ足での学習は、つめ込みにならざるを得ない。こうして、二年生でも、国語科がいちばんきらいという現象がつくられることになる。

## どうしたらよいのか

「一〇〇六字」の配当漢字を「六〇〇字」程度にすることをである。「一〇〇六字」を指導するために、その配当が各学年にされる。三年生以上の漢字をこれ以上ふやすことはできない。すると、一・二年生にも、それなりの配当をせざるを得ない。「一〇〇六字」ではなく「六〇〇字」程度だったら、一・二年生に配当する漢字も、現在よりもつ

と少なくすむ。じっさい、過去において一年生が、四六字だった時もある。そうすれば、「ひらがな」「カタカナ」の学習を、現在ほどはしむらなくてすむことになる。はしむらなくてよくなれば、教師は、ゆったりした気持ちで授業ができ、児童は、楽しく学習に参加することができる。授業が楽しい、これが学校教育でいちばん大切なことである。それが、現在は、おかしなところがあるのである。登校拒否のことが、いろいろいわれているが、授業が楽しくないことも、おおきな原因のひとつだと見ている。もっともつと教育課題の過密さに目を向けていく時に来ていると思うのだが、どうでしょうか。

(元・日野市立平山小学校)

# 漢字指導の意義

紺屋 富夫

いうことか。わかった。」

②ことばの網をひろげる

(造語性)

③むかしの人の物の考え方を知る

漢字を指導するのか  
漢字で指導するのか

私は漢字指導の意義を以下  
のようにかんがえている。

T「野は、里(土地)と、予

(のびる)とを合わせた

字で、ゆったりとのびた

いなかの大地をあらわし

ます。野を使ったことば

を言うてください。」

T「命が、「メイレイする」

と、「イノチ」の意味に

なったわけを説明します。

命は、△(あつめるしる

し)と□(くち)と『

(ひざまずいた人)とを

合わせた字です。人びと

を集めて、王さまが神の

おぼしめしと、自分のい

いつけをみんなにつげる

とき、それを『命(メイ)』

や『命令(メイレイ)』

といたしました。のち、主

人やえらい人が、下のも

のに自分の心を伝えるこ

とも、『命じる』という

ようになりました。

人はだれでも神さまの心

①言葉の意味を確定する

T「『同』は、ドウとも読み

ます。おなじという意味

でのドウです。ドウを使

ったことばを言うてくだ

さい。」

P「同(点)です。」

P「同(級生)です。」

P「同(時)です。」

T「『同時』と書きますね。」

板書してます。

P「あっ、そうか。同時って

よく言うけど、同じ時と

P「山や野原に生えている草

です。」

感じられないだろう。

漢字の指導にあたっては、  
単に日常的に読んだり、書い  
たする機会が多く、知らない  
と不便だからというだけでな  
く、改めてその意味を考えて  
みたい。

によって生まれたのだ、  
とむかしの人は考えまし  
た。神のおぼしめしだけ  
ら、生きていることをだ  
いじにせねばならない。

そこで、神のおぼしめし  
である『命』が『イノチ』  
という意味にもなったの  
です。」

『漢字なりたち辞典』  
(教育社) による

#### ④概念の枠組みを作る

その一例 上位語・下位語

T「筆の字を使った毛筆・万  
年筆・鉛筆の三語はどん  
な関係にあるでしょう。」

P「どれも書くための用具で  
す。」

T「書くための用具は、筆記  
用具ともいいますね。」

P「毛筆・万年筆・鉛筆はど  
れも筆記用具です。」

#### ⑤意味のすりかえを許さない

T「公教育とは何か。」

P「政府や自治体が責任をも  
って行う教育のことです。」

T「さて、新しい市長の方針  
で、男子は全員丸刈りに  
することになりました。」

みなさんは公教育を受け  
ているのだから、市長の  
方針に従いなさい。」

P「公教育というのは行政機  
関が決めた教育をいうの  
ですか。」

T「市議会でも半数以上の賛  
成意見がありました。」

P「丸刈りの強制に反対です。  
『公』は、もともと世の  
中の人々みんなという意

味です。公衆電話、公衆  
便所、公園、公認、公害、  
公表、公開などの『公』  
は、いずれも『みんなの  
ための。みんなのもの。』  
という意味です。特に思  
想や人権にかかわること  
では、一人ひとりの意思、  
気もちを尊重するべきで  
す。行政機関による教育  
が『公教育』すべてなの  
ではありません。」

#### ⑥ことばにこめたおもいを 知る

知る

(○) 英霊を祀る

(×) 英霊を祭る

ある団体の人は、右のよう  
な文字(祀)を用いる。

祭は「秋祭り」「祖先を祭  
る」のように、神や仏を慰め

るために、儀式を行うこと。  
祀は「神として祀る」のよ  
うに、神として神社にとどま  
ってもらふこと。

※『漢字の用法』(角川書  
店)

だから、戦没者を英霊と考  
える人々は「祭」ではなく、  
「祀」を使わなければならない  
のだ。

漢字の学習が、単に字を覚  
えたというだけではなく、日  
常使うことばを、①豊かに、  
②確かにし、学ぶ喜びを伴う  
ものにならなければ、こども  
たちに拒否されてしまうだろ  
う。

(町田市立小山小学校)

★日本語の文字と  
表記をめぐる諸  
問題の参考資料★

▼雑誌特集▲

★『言語』一九九一年三月号  
特集「どうなるか」日本の漢  
字——ハイテク時代の情報  
伝達とデータ蓄積に向けて——  
JIS漢字の意義と評価—高  
度技術への対応と国際化時代  
の要請（樺島忠夫）、情報化  
時代の漢字と正書法（野村雅  
昭）、日本における文字政策  
の歴史（小泉保）、漢字の解  
放と文字教育（林巨樹）、漢  
字の運命（高田時雄）、異体  
字の概念と実態〔資料〕JIS  
漢字異体字表（中原尚道）  
戸籍と文字（石綿敏雄）、ワ  
ープロと補助漢字（佐竹秀夫  
現代表記に必要な漢字数（田  
中章夫）、国字をめぐる  
（飛田良文）

一九九一年三月大修館書店  
【解題】昨年は日本の漢字政  
策の大きな転換をなす年であ  
った。①小学校学習指導要領  
の改定にともなう移行措置が  
四月より開始され、小学生は  
六年間で一〇〇六字もの漢字  
を学習するようになった。②  
一月の法制審議会の答申にそ  
って、法務省は四月に人名用  
漢字を一一八字追加した。こ  
れで人名に使える漢字は二二  
二九字になった。さらに法務  
省は十一月に戸籍氏名の異体  
字の整理案を発表し、ことし  
一月から実施にうつっている。  
③通産省は昨年秋、JIS漢  
字の改定と補助漢字の制定を  
おこないあわせて一万字以上  
の漢字のコードを規定した。  
一九八一年に「常用漢字表」  
が制定されてから十年たつが  
制定の意図（Ⅱ漢字拡大政策）  
が明確に具体化されてきてい  
る。文部省・法務省・通産省  
と一見、ばらばらの行政施策  
に見えるが、底流での拡大政  
策での一致という点はみすこ

すことはできない。こうした  
転換期に照応して、漢字問題  
のゆくすえについての社会的  
関心が非常にたかまってもき  
ている。月刊『言語』が漢字  
問題で特集をくむのはきわめ  
て異例のことだが、漢字にた  
いするさまざまな分野からの  
関心のたかまりをしめすもの  
といえよう。収録論文のうち  
野村雅昭は漢字制限の意義と  
正書法についてふれ、正書法  
の確立は教育のためだけにな  
く、情報処理技術の進歩のた  
めにも必要であると具体的に  
のべる。小泉保は戦前戦後を  
つうじた文字政策を概説し、  
「『漢字の貴族化』（漢字拡  
大政策）が容易に国粹主義・  
軍国主義とむすびつくことを  
過去のながい経験をとおして  
警告しておきたい。補助漢字  
の追加と政府における自衛隊  
の海外派遣の発想はけっして  
無縁のものではない。」と指  
摘する。田中章夫は各種調査  
のデータをもとにワープロに  
収容する漢字の数は三千字程

で充分有効であることを証明  
している。中原尚道は漢和辞  
典編集者の立場から異体字の  
あつかいに焦点をあて、今回  
のJIS漢字の改定と補助漢  
字の制定を検討している。こ  
うした、参考になる論文がか  
かげられている反面、商業雑  
誌としての限界からか、疑問  
にのこるものも掲載されてい  
る。林巨樹（聖徳学園大学）  
はこれからの漢字教育として  
石井方式（後述）をひきあい  
にだし、①戦前とおなじカタ  
カナ先習とする②読み書き別  
習とし、低学年から教科書は  
漢字かなまじり文でくむ③表  
意・表語文字としての漢字の  
しくみを理解できるよう教育  
課程をかんがえる等を提唱し  
ている。「漢字は優秀な文字  
である。」この優秀な文字を  
幼児期よりおぼえさせようと  
いうこの発想は、文字拡大政  
策をささえるイデオロギーで  
もある。日本の戦争国家化の  
攻撃とたたかう意味からも、  
具体的な批判が必要である。

▼雑誌論文・記事▲

★シンボルとしての漢字—  
コンピュータ時代の新たな  
役割(神田泰典)

『言語』一九九一年二月号、  
大修館書店

【解題】筆者は富士通常務理  
事。コンピュータ技師として  
ながくワープロの開発にたず  
さわる。日本語の音と文字表  
記(とくに漢字)の関係をし  
らべあげ、日本語の入力にて  
きした親指シフトキーボード  
を考案した。一九二〇年代に  
カナモジカイが考案したカナ  
タイプライターをもとにして  
いる現在のJISキーボード  
の限界をこえる入力方法とし  
て注目をあつめている。

★漢字が子どもの思考を活性  
化する(石井勲)

『児童心理』一九九一年四月  
号、金子書房

【解題】幼児期から漢字教育  
をしようという「石井方式」  
の提唱者。最近は公文公と共

同で幼児向け漢字カードを発  
売している。「生後十か月の  
〇才児でも、漢字カードを見  
せると関心を示し、じっと凝  
視しつづける。目を指さして  
『め』といい、『目』という  
カードをみせてまた『め』と  
いう。こういうことを毎日く  
りかえしてやっていると、

『目・耳・鼻・手・足……』  
などの漢字を識別できるよう  
になる。「め」「はな」とい  
えない乳児でも漢字はおぼえ  
る」「日本の子どもの知能は  
世界一だが、それは漢字のお  
かげ」といい、漢字の早期教  
育を主張する。学習指導要領  
の改定で漢字が低学年に直撃  
しているが、その背景に「石  
井方式」を支持する教科調査  
官や研究者がいることもみの  
がせない。

▼新聞記事▲

★「俗字、略字を職権訂正」  
戸籍電算化で来年から、法務  
省 『東京新聞』11月1日

★「時代の目」表記の合理  
化に逆行するな/多いほどい  
いのかワープロ用の漢字」  
(野村雅昭・早稲田大学)

『毎日新聞』11月3日

★「方言は控えなさい」校  
則で指導/福島の上公立中学  
校/『行き過ぎ』と批判も」

『読売新聞』11月21日夕刊

★「90ことばの風景」生ま  
れて消える/人々の生きてい  
るさまを映し……/新聞もや  
がて横組みに?/宮廷用語が  
正面舞台に/地域のことばの  
復権」(川崎洋・詩人)

『毎日新聞』12月7日

★「時代の目」プログラム  
は日本語で書こう/小説書く  
ようにつくり/世界に誇れソ  
フトを」(神田泰典・富士通)

『毎日新聞』12月8日

……その他……

★2月7日、国語審議会は外  
来語にかんする答申をおこな  
いました。また、2月27日に  
は文部省の調査協力者会議が  
音訓のとおりあつかいと外来語  
の指導についてのまとめを報  
告しています。いずれも今後  
の文字・表記の教育にかかわ  
る重要なことです。今後の動  
向もふくめて、注視する必要  
があります。(乗木 養一)

◇国字研へのカンパの  
……ありがとうございます……

関 正昭様 五千元  
三宅研太郎様 二万円

漢字教育の基本提案

好評発売中!

頒価一〇〇〇円

国字研のブックレット

★事務局だより★

日ごとに暖かくなってきましたが、国字研ニュース第三号をおとどけます。

三月一四日に文部省の指導要録にかんする調査研究協力者会議が報告書を発表しました。内容はつぎのとおりです。  
 (1)絶対評価としての「観点別学習状況」を重視する。(2)相対評価は小学校1・2年で全廃する。小学校中・高学年で3段階にする。中学校では必修教科は今までどおりの5段階とする。

私は中学の教師をしていですが、相対評価の非教育性は学期末の評価をつけるたびに痛感しています。学力を具体的に評価するのではなく、集

団の序列のなかでどの位置にいるかを示すのにすぎないのです。国語でいうと作文力、読書力、漢字力などの具体的学力はまったく評価できてないのです。これでは子どもを励まし意欲をもたせることはできません。

今回の報告は今までの状態を考えると一歩前進かもしれないですが、小学校中・高学年と中学で相対評価を残すなど不十分な点が多くあります。しかし、今日までこのような非教育的な相対評価が大手をふって通用していたことが問題です。

漢字教育もおなじです。過大量の漢字の押し付けという非教育性がまかりとおっています。上からの改革を待つのではなく、現場から改革の声をおこしましょう。

(三宅研太郎)

国字研夏季アカデミーにご参加を

加を

\*日時 八月九日(金)

九時半～四時半

\*場所 神楽坂エミール

\*内容 (1)講演

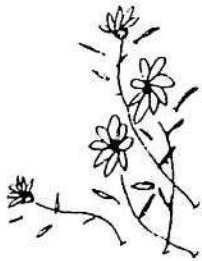
(2)分科会・小学校低学年

・小学校中・高学年

・小学校高学年

・中学校・高校

今年も充実した集会にしたいと思えます。発表者も募集しています。さそいあって参加してください。



入会のお願ひ

国字研に参加し、共に研究をしてください。

国字研の方針

- 1、漢字の長所と短所を正しく認識し、国字についての理論を深める
- 2、小・中・高の教育漢字を精選する
- 3、漢字の適切な教授法を練り上げ、生徒にしっかりと漢字力をつける。

国字研例会のご案内

四月二十一日(日) 十時～  
 五月二十六日(日) 十時～  
 六月二十三日(日) 十時～  
 七月二十八日(日) 十時～  
 いずれも神楽坂エミールで  
 (地下鉄東西線神楽坂下車)  
 TEL326013251